

- 語り合う
- 生命誌の広場
- 中村桂子の「ちょっと一言」
- ラボ日記
- 表現スタッフ日記
- さまざまな交流
- 生命誌のこれからを考える

生命誌の広場

テーマ別に投稿を読む

- 中村桂子の「ちょっと一言」
- 研究について
- 季刊「生命誌」
- 展示・映像
- その他

あなたの考えをお聞かせください

ご意見はこちらから

最新のお返事

- 2019年10月02日
[RE:アゲハの気持ち](#)
- 2019年09月26日
[アゲハの気持ち](#)
- 2019年09月13日
[原爆について](#)
- 2019年09月05日
[BRHメールマガジン vol.363 新着情報](#)
- 2019年08月28日
[この夏一番元気だったものは？](#)

最新のご意見

- 2019年09月27日
[RE:アゲハの気持ち](#)
- 2019年09月25日
[アゲハの気持ち](#)
- 2019年09月09日
[原爆について](#)
- 2019年09月05日
[BRHメールマガジン vol.363 新着情報](#)
- 2019年08月23日
[この夏一番元気だったものは？](#)

過去の書き込み

2019年 10月
GO

みなさんからのご意見

展示・映像

スタッフさんのガイドに感動しました

投稿日：2019.07.27 ニックネーム：こや

NHKスイッチインタビューを見て、とてもよかったので本日訪問いたしました。

あいにくの天気のおかげ(笑)で人が少なく、展示ガイドのスタッフさんを独り占めでき、たくさん会話をする事ができてよかったです。生物の不思議さ～研究の面白さがとてもよく分かるガイドをしていただき、ありがとうございました。たくさんの先輩生物の絶滅をも乗り越えて、今の私たちがあるんですね。細胞/DNAの歴史すごい！

1番印象に残った点ですが、チョウの脚には、メスにだけ味覚の感覚器があることに、とても驚きました。

高校の時の化学の先生が、大学の時に生物系の研究室にいて、「生物の構造（酵素反応とか）はあまりによくできていて、誰かが設計したのではとってしまう。」

と言っていたのを思い出しました。

自薦淘汰だけでこうも合理的に進化するものだろうか。。？適応のためにこういう体でありたいという生物自身の意思が、（人間が道具を創り出すように）進化に反映されているのではと感じ（勝手な解釈ですが^^）、敬虔な気持ちになりました。訪問してよかったです。よい時間いただき感謝です。

長くなりましたが、今後の益々のご活躍と発展をお祈りしております。応援しています。

お返事

投稿日：2019.07.30 名前：中村桂子館長

研究館へいらして下さったとのことありがとうございます。ガイドを楽しんで下さったことにもお礼を申し上げます。

情報ですと機械を通してでも伝わりますが、「思い」は人を通してしか伝わらないと思い、ガイドをしています。ちょっと内輪ぼめになりますが、研究館のガイド役は全員知識欲と生きもの好きの情熱があり、好評です。また是非お出で下さい。お仲間にも宣伝をお願いします

その他

館長出演 NHKスイッチインタビュー達人達を観て

投稿日：2019.07.22 ニックネーム：音の良いピアノ

令和元年7月20日NHKスイッチインタビュー：EテレPM10～

【中村館長×館野泉】達人たちの対談を観ての感想（見逃された方は再放送を！）

まずは、京都アニメーションの事件で犠牲になられた方々のご冥福をお祈り申し上げます。

●さて、番組を観て総合的に一番感じたことは、(失礼かもしれませんが) ご兩人83歳にしては、非常に若々しく、仕事熱心で「プラス思考」全開だと言うことです。また、「六角精児」氏のナレーションも良い聴感でした。■前半は、館野泉氏宅での「今までの生きざま：ノルウェーとの関係性」を中村館長が、表情豊かな質問で聞き出し、繊細な館野氏の「左手だけのピアノ音楽」で、心の

新着情報



10月19日生命誌オープンラボ (19.10.01)

10月4、5日 生命誌を考える映画鑑賞会(19.10.01)

昆虫脳の標本展示が登場！(19.10.01)

パラパラめくる生命誌3ダウンロード開始(19.10.01)

あくあびあ芥川とスタンプリー開催(19.10.01)

底からの思いを話されたことは、さすが、BRH Cards で培ってこられた対談ノウハウが生かされたのでは・・・と感じました。コンサートの「音」も良かったです。◆後半の、中村館長の時は、館野氏を雨の高槻「JT生命誌博物館」に来ていただき、館内の展示物などを説明しながら生命「誌」38億年について熱弁？されていたのが印象的でした。私も「史」と「誌」の相違点が少し理解できた気がします。また、館長もさすが、日本を代表する「リケジョ」の先駆者ですから！館野氏も異分野の生命（誌）を理解され感想を率直に述べられていたのも印象的でした。前向きな「死生観」も達人達らしい感性でした。館内の色々な展示物の紹介の中でも、入口の「扇型の生物発祥の絵」と大きな「細胞の透明模型」には私も興味を持ちました。♥最後、館内の対面で丸テーブルに座っての番組まとめ話では単独の「音楽×生命科学」に留まらず、総合的な人間性：達人同志の域を超えた「生物が幸せに生きる」と言う『答え』を垣間見た気がし、意味深くてE番組で、やはり、一見の価値あり。観て良かったです。

お返事

投稿日：2019.07.25 名前：中村桂子館長

ありがとうございます。ニックネーム通りの館野さんの音をお聴きになれてお幸せだったと思います。同い年なのですが私が1月生れ、館野さんは9月生れでいらっしゃるの、お会いすると「お姉さんなんですよ」と意地悪をおっしゃいます。でも左手を思いきり生かしてまだまだなさりたいこといっぱい感じは本当にすばらしくお仲間にしていただくことの幸せを感じています。



中村桂子の「ちょっと一言」

そしてこれから

投稿日：2019.07.19 ニックネーム：hary

- 1 空中窒素の固定…マメ科植物の根粒菌を大事に、鉢植えに生えてきたマメ科植物・草はできるだけ取らないで、窒素を確保していただいています。
- 2 人間も太陽光エネルギーを利用して、炭酸同化作用をできるように、皮膚に葉緑素を持っていれば、もっと自立できるのに・・・AI,遺伝子組み換えなど…検討できないでしょうか？

以上、私の、これからに期待していることです。

お返事

投稿日：2019.07.19 名前：中村桂子館長

確かに、生きものの歴史を見ていると、光合成のもつ力の大きさを感じ、どうして植物だけのその能力が行ったのかなと思わなくもありません。けれども、現在の地球で生きている動物の一つとして考えると、長い長い間にできてきた仕組みの中で生きるのが賢いと思うのです。仕組みの全体を考えると大事という考え方が、進歩最優先の社会から消えていることの問題点を思うのです。長い歴史の中にいる生きものの一つという感覚をまず持って、そこから技術を考えていく。生命誌はこのように考えます。



中村桂子の「ちょっと一言」

BRHメールマガジン vol.360 新着情報

投稿日：2019.07.17 ニックネーム：祇園祭の山鉾

【中村館長のちょっと一言 & 祝：TV出演】

「そしてこれから」は一読して思うこと

「七夕」も過ぎ、南米の「皆既日食」もTVのニュースで映像を観ました。ちょうど、「光文社新書」の太陽に関する新刊本を読んでいたもので、より一層感激しました。●さて、第2段落の「生命誌機関紙」にそんなエピソードがあったとはある意味、アイデンティティーある機関紙へ変身できて良くなり今まで生き延びられたのかもしれないね！貴館のBRH Cardsには、統一性ある意思が感じられ、真意が直感的に伝わって来てGoodで、純粋生物科学的な機能説明・論文も読め、工作もできて楽しいです。◆ここで、第3段落の次の季刊101号内容の件ですが、私も非常に難しい問題を含んでいると思っています。それは、世界が「AI化、いつか来る？シンギュラリティ、国際的な自国・経済第1主義、貧富の拡大、地球環境の破壊、仮想通貨の拡大等」、今までの生きると言う通常行動が通じなくなる様な気がしています。実質的に国家が機能しなくなる？：GAFAsの様な企業が世界の将来を変革し、ベーシックインカムのような、インフラ業務も行い支配する？・・・と言う学者さえいます。でも、画一でない地球上

の多様性ある人類（文化、民族、宗教、思想、知能、経済活動、住居環境等）は、それらの恩恵を受けられ 本当に幸せになれ 明るい未来があるのでしょうか？ 私は、人類の未来は 今までの経過を鑑み：人間性豊かな動物的で多様性を認め、AIマシン等に支配されず恐れなくて良い、「自己や広い意味でのファミリー」を重視した進化・発展を望み、明るい未来があることを信じています。♥また、「NHK SWITCHインタビュー」は、時々 観ています（インタビューの人を読んで！）。祝：中村館長のご出演楽しみにして録画して拝見します。永久保存版かな〜?! ■もうすぐ、梅雨明けで「夏本番」です。皆様お体ご自愛を…。

お返事

投稿日：2019.07.18 名前：中村桂子館長

たくさん考えさせられるメールをありがとうございます。おっしゃる通り、今私たちは別れ道に立っていると思います。各国の首脳の言動、イノベーションという言葉をおまじないのようになってAI、仮想通貨や再生医療などだけがすばらしい未来をつくるかのように言う大学関係者、人々の生活を幸せにするための経済についてまったく考えていない企業や経済関係者・・・この道は多分滅びの道だと思います。生きものとしての私たちがみんな仲間として（どの国の人も仲間であることはもちろん他の生きものも）生きていく未来を描きたい。イノベーションでもなんでもなければ、よく考えて生きる道を選びたいと思っています。



中村桂子の「ちょっと一言」

響くことば

投稿日：2019.07.16 ニックネーム：KSB

シビれました！本文二段目「そんな大人気ないことはできません。でも同じようなものをつくるのはイヤ……ありがたい圧力だったと思っています」ふつうのおんなの子。ふつうが一番長続き。原体験や本質を感じとる。なんでもあり、きまりもある（←これは染織工芸大羊居さんのブログタイトルです。ふつうで力強く大好きな言葉です。）

お返事

投稿日：2019.07.19 名前：中村桂子館長

同じような考え方をしていらっしゃることを心強く思います。ありがとうございます。実は、「祇園祭の山鉦」さんへのお返事に今思っていることを書いたところなのです。これからの生き方についてです。もう一度同じことを書くのもと思いますので、申し訳ございません。そちらを読んでいただけますか。「なんでもあり、きまりもある」という言葉はまさに生きものの生き方ですね。また書きこんで下さると嬉しいです。



中村桂子の「ちょっと一言」

持続可能な社会って

投稿日：2019.07.14 ニックネーム：Decoちゃん

梅雨の時期いつも思うことは、雨の中でもツバメは一生懸命子供たちのえさを摂る姿を見るたびに感心させられます。自分の子孫を残すこと＝持続可能性を維持することでないでしょうか。生命誌研究館では、科学の面から生物の持続可能な地球を研究されていることと、2015年に国連で採択された17の持続可能な開発目標（SDGs）の項目と重ねあってしまいます。今の世の中で、自分にできることは何か？を考えながら、楽しい人生を過ごせたらと思っています。

一度、生命誌研究館を訪問したいと思っています。そして、研究員の方と少しでもお話しできたらな～と思っています。「生命誌」の内容は、私には難解ですが、わかる範囲で楽しく読まさせていただきます。

お返事

投稿日：2019.07.18 名前：中村桂子館長

生きものは「持続すること」を第一に生きていますので、生きものらしく生

きることが続くことにつながると考えています。もちろん生きることは厳しく、いつも死と共にというところがありますが、それも含めて生きものとしてが基本と生命誌では考えています。是非研究館へいらして下さい。

季刊「生命誌」

ポップアップ年表、いいですね!!

投稿日：2019.07.13 ニックネーム：花風船

延び延びにしていた立体年表、やっと組み立てて台上に安置しました。わたしの今いるところ…眺めています。100号の歩みのご努力に敬意を表し毎号のご恵送に感謝します。高槻の生命誌研究館を訪問するのが、私の大きな願いになりました。

お返事

投稿日：2019.07.18 名前：中村桂子館長

私も「わたしが今いるところ、そしてこれから」を考えながらポップアップを眺めています。長い時間の中で考えることの大切さを思いながら。研究館、是非いらして下さい。特別の空間を楽しんでいただけたと思います。



中村桂子の「ちょっと一言」

教科書の改訂に元気もらいました。

投稿日：2019.07.03 ニックネーム：竹ちゃん

今年の天候は、少し極端な気がします。
大きな災害にならないことを願っています。
後期高齢者の仲間入りする私も、中村館長さんのご活躍に元気をいただいております。

さて、来年度から使う小学校教科書の展示会に行ってきました。
少々不安をいだきながら国語の教科書を見ていきました。
すると、「生き物はつながりの中に」が教科書から消えていました。
6年生には少し難しいところがありましたが、印象に残る教材だと感じていたのにと、残念です。
更に詳しく見ると、「今、みなさんに考えてもらいたいこと」中村桂子 文 が載っていました。
時間がなかったのですが、全文を読みました。
やわらかい語り口で、目の前で中村館長さんのお話を聞いているような雰囲気になりました。
この教材は、6年生にも受け入れられるだろうと思います。
来年度、出前授業をさせてもらおうとワクワクしてきました。
また、「生き物はつながりの中に」を複数学級で出前授業しておかなくてはとも思いました。
子どもたちの感想が得られましたら送らせていただきます。

生命誌館の活動が多くの方に理解されることを願っています。
中村館長さんのお元気な姿を楽しみにしています。

お返事

投稿日：2019.07.05 名前：中村桂子館長

いつも出前授業をしていただきありがとうございます。新しい文は、卒業の時に読んでもらうような位置づけになっていると言われ、あのような文にしました。小学生もこれからを考えていると思ひまして。またいろいろお教え下さい。

季刊「生命誌」

季刊生命誌WEBフォームより

投稿日：2019.07.03 名前：佐藤良和

酒田市の日本海沖北北西39kmに「飛島」があります。ここに「トビシママイマイ」なるカタツムリが棲息。記載以来、多くの方々は島独自の「いきもの」

と考えて来た。しかし、現飛島の陸化の歴史から亜種を産み出す程時間は経過していないと考え、その来歴を追ってきました。既に55年になります。最近、記載された1931年の数年前以前には、島にこれはいなかったと結論出来るところに到達。この思考の経過とこれらに関わった人々の取り組みとその人物像について記述しています。学生時代(1960年代) オサムシに熱中しました。Damasterの地理的変異の謎からカタツムリを探る事になり、やがてトビシママイマイをめぐる問題に到達、その後「生命誌」に出会い、以来、「生命誌」に学んできました。

お返事

投稿日：2019.07.03 名前：表現を通して生きものを考えるセクター・齊藤

学生時代はオサムシに熱中され、それがカタツムリのご研究につながったとのこと。生命誌研究館の研究もオサムシのDNA研究が始まりでした。55年もの間、トビシママイマイを追い続けてその始まりを突き止められたとは素晴らしい。1931年以前はどこにいたのでしょうか、どのように島にやってきたのでしょうか。その起源にますます興味が湧きますね。

お返事

投稿日：2019.07.03 名前：中村桂子館長

カタツムリの研究55年の間にはたくさんエピソードがおありのことと思います。また「[生命誌の広場](#)」にエッセイ風に投稿して下さると嬉しいです。我が家（東京）の庭もカタツムリがたくさんいたのですが最近めっきり少なくなりました。近所で調査をしている方たちも現象していると言っていますので暮らしにくくなってきているのでしょうか。

季刊「生命誌」

季刊生命誌WEBフォームより

投稿日：2019.07.03 ニックネーム：teru

BRHをいつも楽しみに・・・中村先生の「ちょっと一言」そのとうり・・・と思いながら読ませていただいております。今回、ヒストリーを見せていただき・・・いいね・・・を家内と見せていただきました。

お返事

投稿日：2019.07.03 名前：表現を通して生きものを考えるセクター・齊藤

さっそくのご回答ありがとうございます。100号という節目、サイエンティスト・ライブラリーで改めて中村館長を取り上げました。生命誌研究館の始まりまでの物語は、私自身初めて知ることばかりでとても新鮮でした。後編は12月の掲載です。是非お楽しみにお待ちいただければ幸いです！

お返事

投稿日：2019.07.03 名前：中村桂子館長

「いつも楽しみに」が一番ありがたい言葉です。なかなかいいことやっている人たちがいるんだよと、お友だちに広めていただけるともっとありがたいです。

季刊「生命誌」

季刊生命誌WEBフォームより

投稿日：2019.07.03 ニックネーム：Y.Y

家族で読んでいます。紙工作を実際に作りながら、そもそもの命、、、深く思いめぐらしています。途方もない長さの時間軸、今の時代だからこそ目の前のあれやこれやで流されず、折に触れ思い起こしたいです。

お返事

投稿日：2019.07.03 名前：表現を通して生きものを考えるセクター・齊藤

ありがとうございます。丁寧に考える材料としていただいているようで、嬉しく思います。「そもそもの命」という表現、とても心に残ります！様々な方に、自然のもつ長い時間を感じてもらえたらと願っています。またお考えをお聞かせください。

お返事

投稿日：2019.07.03 名前：中村桂子館長

100号の紙工作あどこかに広げて置いて下さると嬉しいです。時々、宇宙を地球をといるいるなところを開いて、長い時間の中で起きた事柄のどこかに注目してあれこれ考えていると、おかしな競争は止めましょうという気持ちになれるのではないのでしょうか。

その他

BRHメールマガジン vol.359 新着情報

投稿日：2019.07.03 ニックネーム：サクランボ

【地方都市へ出張開催について】

良いアイデアだと思います。高槻から遠い大都市の子供たちにとっては、貴館(生命誌)の様な「自然」を対象にした研究館の見学は楽しいと思います。準備が大変でしょうが、ぜひ 東日本へも足を延ばして、出張展示をご検討ください。市民の中でも子供たちが1番喜ぶと思います。『見たことのない展示物や研究機器』は新たな研究者へのトリガーにもなります。また、貴館の存在を全国に告知するにも良いのでは。

お返事

投稿日：2019.07.03 名前：中村桂子館長

応援ありがとうございます。小さな組織としては出張展示は、ちょっと大変というところがありますが、そんなことを言っているはいけませんね。できる範囲で努力をして行きたいと思います。

▲ ページの先頭へ

サイトのご利用について | プライバシーポリシー | サイトマップ | アイアポリシー | サイトマップ



JT生命誌研究館
〒569-1125 大阪府高槻市紫町1-1 TEL:072-681-9750 (代) FAX:072-681-9743

copyright © JT Biohistory Research Hall 2012.